

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第202版

理念と実践で
絆を結びます

竹取新聞は、「子ども第一義」の理念のもと、皆様の保育に少しでもお役に立てたらとの思いでお届けしている新聞です。お客様が素敵な保育実践はもちろん、マネジメントや働き方、子育てや暮らしのあり方、社内の取り組みやウェブ・IT支援まで、カグヤの実践を発信しています。明日から真似できることや、挑戦する勇気につながることを大切に発刊しています。

竹取新聞に関する皆様のご意見やご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見もお待ちしております。お電話やメールでもOK！

03-3518-6217
info@caguya.co.jp



子どもたちの「やってみたい!」という様子は、ホームページ内のインスタグラムやすぐわくプログラムでご覧いただけます。ぜひご覧ください!

子どものやってみたい!が未来を創る

葉をいただき、実際に取り組みが始まりました。

また、理事長交代のタイミングとも重なり、法人理念の整理にも関わらせていただきました。創始理念は「子どもに夢とあわせを」。初代園長である祖母様が立ち上げた想いやエピソード、戸田先生ご自身の幼少期の体験をお聞きしました。お父様に自宅の庭に自転車コースを作ってもらったり、天体に興味を持ってばらまで一緒に観測をしてみたりした経験などから、「やりたいことをやらせてもらえた幼少期だった」と仰います。創始理念を今の時代に具体的に実現するとしたら、「子どもの『やってみたい!』が未来を創る」になると実感から紡ぎ出され、「やってみたい!」の気持ちは子どもたちだけではなく、先生方も大切にしてもらいたいとも言います。また、理念が整理されたことから、職員研修でもHPを活用していきたいということでした。

さらに、東京都が推進する「とつきょうすくわくプログラム」における実践レポートの公開や法人共有について

もご相談をいただきました。そこで、複数園ある強みを活かし、取り組みをHP上で共有できる仕組みをご提案したところ、「園同士の共有にも作業の効率化にもつながる」とのお言葉をいただきました。

今回のプロジェクトは、採用を短期的に増やすことを目的としたものではありません。採用会社に頼るだけでなく、園自ら発信し、理念に共感する人材と出会うよう、ウェブ動線を整える取り組みです。その一環で、第一段階としてHPを公開しました。

今後は採用ページの動線改善や、インスタとの連動など、より見やすく、情報にたどり着きやすいサイトへ整理していく予定です。

保育と同様に、ウェブ上の動線も重要な環境の一つです。今後も園の発信力を高め、理念に共感する人材と出会いは続けられる環境づくりを提案していきたいと考えています。青い空保育園様のHP内のインスタ、すくわくレポートから、子どもたちの「やってみたい!」の様子がご覧いただけます。ぜひご覧ください。(奥山卓矢)

新設! 一円対話コーナー

本号より、本誌のデザインを一部リニューアルいたしました。特に大きく変わったのは、裏面の上部に『今月のカグヤ社内「一円対話」テーマ』というコーナーを新設したことです。

これまで、一円対話に取り組まれている先生方からは「職員間のコミュニケーションを深めたり、理念を浸透させたりと大切な機会ではあるものの、毎回の席順や自由テーマ設定に悩んでしまう」というお声を多くいただけてきました。

そこで、先生方のヒントや参考となるよう、私たちが一円対話で実際に設定したテーマをこの竹取新聞で共有する場を設けることにしました。掲載しているテーマをそのまま活用いただいたり、園の状況に合わせてアレンジしていただいたり、日々の実践にお役立ていただければ嬉しく思います。

今回のリニューアルは、3月に第200号を迎えたことを

きっかけに、「竹取新聞をお届けする目的とは何か」を改めて見つめ直したことから始まりました。そして、その目的を「お客様に喜んでいただくこと」と再確認しました。では、どのような内容であれば喜んでいただけるのか。役に立つこと、真似できること、勇気につながるなど、さまざまな視点から意見を出しました。

その中で、一円対話のテーマ設定については特にご相談をいただく機会が多いことや、一円対話を導入されるお客様が増えてきたことから、今回のリニューアルへと繋がりました。お客様のお困りごとやご要望に合わせて、喜んでいただけるような内容に改善し続けていきたいと思っております。「こんな情報があると嬉しい」といったお声も、右側のQRコードよりぜひお寄せいただけますと幸いです。(眞田由莉)

東京都世田谷区にある青い空保育園様のホームページ(以下、HP)制作に携わらせていただき、4月に新サイトを公開しました。理事長の戸田先生とは世田谷区の園長会で初めてお会いし、これからの時代におけるインスタグラムの役割についてお伝えしたことをきっかけにご相談をいただきました。後日状況を伺うと「採用ページを作ったが応募が来ない」「採用が紹介頼りになっている」といっ

たお悩みがありました。そこでご提案したのが「ウェブ動線の見直しと連動」です。HPや採用ページは釣り竿のようなもので、竿を用意しても、魚のいない場所に垂らしては釣れません。HP(総合窓口)、採用ページ(採用窓口)、インスタ(広報)の3つを連動させ、応募へとつながる流れを整えるプロジェクトをご提案しました。「園に足りなかったのは仕組み作りだった」とのお言

今月の カグヤ社内「一元対話」テーマ

- 席替えテーマ：「絶叫系アトラクションを楽しめる順」
（新しい個性や一面が知れるようなテーマ設定がポイント！）
- 自由テーマ：「ひそかにはまっていること」
（オープンで本心本音が出しやすいようなテーマ設定がポイント！）



一元対話は、園が主体となって「聴く文化」や風通しのよい組織風土を育てていく実践です。カグヤは、その取り組みが園に根づくよう伴走しています。ここでは毎月、カグヤで実践された一元対話のテーマをご紹介します。導入いただいている園の聴福人さんがテーマを設定する際の参考にできれば幸いです。



一元対話の情報は
こちらから

一元対話にご興味のある方はお問い合わせください！



ドクダミには、よく目にする一重だけでなく、八重咲のものも。より華やかですね！

5月に入り、新緑がまぶしい季節になってきましたね。草の勢いも実感するようになる中、庭や道ばたなどでドクダミを目にするようになってきました。独特な香りと驚異的な繁殖力で、放っておくと一面ドクダミだらけになり、他の植物が生えなくなってしまうこともあって、厄介な雑草としても知られていますが、実はすごい力があるのをご存知でしょうか。

真っ白い清楚な花（正確には花ではなく、葉が変形したもの）やハート形の葉っぱがかわいいので、室内で飾ることも多いのですが、このドクダミには消臭効果や、様々な虫に対して忌避効果もあるため、摘んだドクダミを部屋に飾ってみることで、見た目だけでなく、梅雨どきのいやなおいを消してくれたり、蚊が寄り付きにくくなったりする効果が期待できるのでオススメです。



これから迎えるドクダミのハイシーズン！ドクダミの花や葉をアルコールに漬けた自家製の虫刺され薬をつくったり、乾燥させてお茶や入浴剤をつくったりと、色々できそうです。皆さんも試してみてくださいはいかがですか。

これに限らずドクダミは昔から「十葉（じゅうやく）」と呼ばれ、10以上の薬効があると言われるほど、私たちの健康をサポートしてきた万能な薬草だといえますから、厄介ものどころか、長い間暮らしに役に立ってきたありがたい存在だったんですね。「雑草という草はない」という言葉も残っています。が、自然にも人に対しても、やっぱり感謝の心からそれぞれの特性を活かし合えるような暮らしや働きを心掛けていきたいものです。

（宮前奈々子）



また、虫よけだけでなく、虫刺されにも効果があり、私自身も実際に蚊にさされた時に、近くにあったドクダミの花や葉っぱを、患部に揉みこんでみたところ、かゆみやはれが軽くなって驚いた経験も。

ドクダミ

一期一会庵

安心して育つ場

物事の見方というのは、人によって異なります。ある人には良いことでも、また別の人には悪いことにもなります。同じ現象で、同じ状況でも見方次第で結果は全く別物になります。

故事に「人間万事塞翁が馬」というものがあります。これは簡単に言うとうこうです。

昔、塞翁という老人の馬が逃げたしまい、周囲は「不幸だ」と言いました。しかしその馬は、後に良い馬を連れて帰ってきたので「幸運だ」と言われます。ところがその馬に乗った息子が落馬してケガをし、「やはり不幸だ」となりましたが、そのケガのおかげで息子が戦争に行かず済み、命が助かり「幸福だ」となった、という話です。

周囲が不幸だ幸福だと騒いでも、塞翁という老人が「いや、これはそうとも限らない」と物事の見方をその都度に変えて対応した知恵の故事です。出来事の結果はその時に決まったわけではなく、その途中とし

て受け容れ、さらに運命が好転していくように見守っていくという心の態度です。

そう考えてみると、人生は色々なことがあり感情も一喜一憂します。周囲も様々な評価や解釈をします。しかし、生き方に照らし見方を変えればすべてそこから学ぶことがたくさんあります。

例えば、悪いことがあった時にも、これはいつか善いことになる素直に信じ、善いことがあった時には、これは後に氣をつけたいといかないかもしれないと謙虚になる。そうなる善悪正否や評価なども忘れて、「今がちょうどいい、これでいい」と意外と氣楽に取り組んでいくものです。

自分のものの見方がどうなっているか、カグヤでは「丸ごと一元観」ともいい、「一元対話」でそのものの見方をみんなで磨いています。この実践を続けていくと、あるがままがいい、そのままがいい、存在そのものがいいと、居心地のよい居場所ができ安心できる職場になります。

これからも子どもたちが安心して育つ場をお手伝いできるように精進していきたいと思えます。

（野見山広明）

編集後記



とても濃密な保育園時代でした

ゴールデンウィークはどのように過ごされましたか？ちょうどゴールデンウィーク中に子どもの数が過去最少、というニュースを目にしました。数字だけを見ると不安を感じますし、皆さま少なからず影響を受けているかもしれない。けれど園では今日も子どもたちの笑い声が響き、毎日成長が

生まれていると思います。子どもの数が減る時代だからこそ、「一人ひとりの育ちを丁寧に見守る保育」の価値は、これからますます大きくなっていくのではないのでしょうか。

先生方の日々の保育の積み重ねこそが、社会の希望につながっている。そんなことを改めて感じた初夏でした。

（眞田由利）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218



カグヤ公式
Instagram
Follow us!

